

日本YMCA同盟

THE
YMCA

The Young Men's Christian Association News



No.832 2023

2023年12月1日発行（毎月1日発行）
1947年10月27日 第三種郵便物認可
本体価格45円（外税）（送料63円）
発行／公益財団法人 日本YMCA同盟
〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2番11号
Tel 03-5367-6640 Fax 03-5367-6641
URL : <https://www.ymcajapan.org/>
発行人／田口 努 編集人／横山 由利亜



学校法人東京YMCA学院 江東YMCA幼稚園

OPINION

クリスマス物語の主演は…？

やなした あきこ
日本キリスト教団番町教会牧師 柳下 明子

クリスマスの時期には、街や家庭で幸せな集まりが持たれ、そこではしばしば「メリークリスマス!」という挨拶が交わされます。けれども、クリスマスは「メリー（Merry: 陽気な、愉快的）」なものとしてのみ受け取ることができるものなのかどうかは疑問です。

多くのキリスト教主義の幼稚園、保育園、学校などでは、この時期にクリスマスページェント（降誕劇）が行われ、そこではただ楽しいだけではない、静かで落ち着いたクリスマスの雰囲気が伝えられることでしょう。マリアは天使から、自分が「聖霊」によって身ごもったと伝えられます。人口調査のために旅に出て旅先で泊まる場所が見つけれず、馬小屋に案内されその場所でお産します。生まれた子どもを牛や馬、ロバなどの家畜が見守っていると、そこに天使から救い主の誕生を告げられた羊飼いたちがやってきて、大団円です。場合によっては、ここに東の国から星の動きを見て救い主の誕生を知った博士たちが合流するパターンもあります。

こうしたクリスマス物語の起源になっているものは、聖書の中のイエス・キリスト誕生のシーンでしょう。その一つ、「ルカによる福音書」に伝えられる、イエス・キリストの誕生の物語は若い女性が望まない妊娠を宣告されることから始まり、2章では、彼女の生活する地域を支配する大国の政治の都合で、過酷な移動を彼女は強いられます。移動した先で彼女は、「初めての子を産み、布にくるんで飼葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる場所がなかったからである」（ルカ2:6）と伝えられます。出産に安全な環境が提供されず、新生児にも十分な用意を備えることができない状態です。

そのいのちが危機にさらされている女性と子どもが、聖書のクリスマス物語の主演です。それは楽しく陽気に受け取られることはありません。

けれども、その子どもの誕生を天使によって告げられた、「野宿をしながら、夜通し」仕事に従事していた者たちはその子の姿に喜びを見出します。その生活が不安定な状況におかれている人が聖書のクリスマスの物語の証人です。それは楽しく陽気に過ごしている人のための物語ではありません。

これは、生きることの困難に立たされた人びとの物語です。自分の身体の上に圧倒的な支配を受けている若い女性が環境も整わない場所でお産します。生まれた子どももまた母親も、生存の危うい場所に置かれています。けれども、そのいのちの危機に瀕している子どもこそが救い主であり、私たちの希望となる、というのが聖書のクリスマス物語です。聖書のクリスマス物語がこのようにして救い主誕生を伝えるのはなぜでしょうか。それは、最も弱い立場におかれた、誰をも脅かさない存在を守り支えることが、すべてのいのちを守ることに繋がるからでしょう。

今年の12月になっても、誰にとっても楽しく陽気に過ごすことのできるクリスマスは、わたしたちからまだ遠くにあります。すべての人にとって「メリークリスマス!」が真実になる日を求めて力を尽くしていきましょう。



祝 各地で周年記念

●東京YMCA山中湖センター100年～日本初の野外教育施設として

「日本にも青少年の全人教育の場を作りたい」。1923年(大正12年)、北米留学から帰国した東京YMCA会員の小林彌太郎氏は、山中湖畔に土地を購入し、東京YMCAに寄附。日本初の常設の野外教育施設である山中湖センターが誕生し



ました。以来100年、富士山を正面に臨むこの絶景のキャンプ場は、青少年だけでなく家族キャンプや障がい児者のキャンプなどさまざまなプログラムの舞台となり、全国に多くの人材を輩出してきました。100周年にあたり東京YMCAは、経済的に困難な状況にある子どもや外国ルーツの子どもたちなど100人を無料キャンプに招待。10月28日の記念感謝会には山中湖村の村長や教育長のほか、山中湖を愛する80人余が参加し、改めて「YMCAキャンプの持つ力」について学ぶとともに、次代への期待を語り合いました。

●熊本YMCA 創立75周年～「熊本バンド」の息吹を継いで～

1948年、戦後の混乱期に設立された熊本YMCAですが、その源はさらに72年前、1876年(明治9年)に「熊本バンド」と呼ばれる学生グループが作られたことに遡ります。彼らは1880年の東京YMCA設立をはじめ各地の教会やミッションスクールの創設に関わり、日本のキリスト教史に大きな影響を及ぼしました。その息吹は今も受け継がれ、熊本の地に深く根をはって地域の人たちの成長に寄与しています。10月9日の記念式典には、会員だけでなく熊本市副市長ほか行政や企業関係者など252人が参加。歴史を振り返るとともに「世界YMCA Vision2030」を学び、これからもより良い地域社会のために手を携えていくことを約束しました。

●盛岡YMCA 創立40周年～多くのリーダーが集う場所～

盛岡YMCAは1975年、仙台YMCA70周年記念事業として設立準備が始められ、1983年に設立されました。スタッフレスの時代など苦節を経ながらも、野外教育、英語教育、サッカーなどを展開。現在はアフタースクールや水泳も実施し、100人を超えるボランティアリーダーが活躍しています。農村プログラムを考案するなど、SDGsに関する取り組みもされています。10月10日の記念式典もリーダーたちによって運営され、40年間に関わった保護者や会員たち100人余が参加。温かな集いとなりました。

ウクライナから日本へ

難民に準じた「補完的保護対象者」として認定

今も収束の見通しがたらず、「戦争が終わっても、自宅はもう残っていない」――。日本で避難生活を送るウクライナの方々に対して政府は、引き続き保護が必要だとし、12月1日より「補完的保護」制度を適用すると発表しました。

この「補完的保護」は、日本における難民として認定はされないけれども、難民に準じて保護する制度で、今年6月の入管法改正で新しく作られたもの。ウクライナ避難者はこの制度の初めての適用者となります。適用後は、日本での定住に向けて、500コマ余りの日本語教育と、日本での生活ガイダンスとして医療や年金、税金や各種習慣を無料で学ぶことができ、「定住ビザ」を得ることができます。

これまでウクライナ避難者に対して日本は「特定活動ビザ」を発行し、公営住宅の提供や生活費の一部を支援するなどしてきましたが、依然として定職に就けていない避難者が大多数です。

今回、「ウクライナ避難者ばかり優遇されているのではないか」との指摘もありましたが、日本でゼロから生活を始める避難者に対しては、支援が過剰になることはありません。むしろウクライナを前例とし、さまざまな困難な事情で自国から逃れてきた人への支援をより広げていくべきと考え、YMCAは引き続き、伴走支援と官民連携による制度充実に努めています。

パレスチナの平和を願って

10月7日以来、イスラエルとパレスチナでは何千人もの命が奪われ、世界中が深い怒りと悲しみの渦の中にいます。10月19日にはガザYMCA関係者が犠牲となるなど、現地YMCAも痛ましい事態に巻き込まれています。

パレスチナ自治区内には「ガザYMCA」「東エルサレムYMCA」があり、同じエルサレム内のイスラエル領土には「エルサレム・インターナショナルYMCA」があります。いずれも第二次大戦後に設立され、長年にわたる紛争で傷ついた青少年を対象に、職業訓練やリハビリのほか、音楽やスポーツなどの社会教育活動を行っています。



また「エルサレム・インターナショナルYMCA」は、イスラエルとパレスチナの子どもたちの交流プログラムに力を入れており、「東エルサレムYMCA」は紛争で失われたオリーブ畑での植樹活動を行うなど、それぞれの地で憎しみの連鎖を断ち切ろうと努めてきました。日本のYMCAはこれを支持し、これまでに1000本以上のオリーブの苗木を贈るなど交流を続けています。



10月7日以降、パレスチナは全域にわたってイスラエル軍に包囲され、都市間を移動することもできず、YMCAも活動停止状態となっています。東エルサレムYMCAからは10月19日、ヨルダン川西岸地区での救援活動のため、世界YMCAに対し支援要請が出されました。

一方ガザYMCAは10月25日現在、地域での支援活動を展開できる状況ではありませんが、今後新たな情報が入次第、下記サイトでお知らせします。

人々の命が守られ、一日も早い平和が訪れるよう切に祈ります。

世界YMCA カルロス・サンヴィー総主事メッセージ(抄訳)



私たちは、即時停戦、人質の解放、そして水や食料など生活必需品の供給、市民に対する制限の撤廃を求めます。

…(中略)…

私たちが今、平和と正義の道を選ばなければ、未来の世代を失望させ続けることになります。私たちは、冷静さを、正気を、そして人間性を求められているのです。

暴力は、憎しみと復讐の永続的な連鎖を生み出し、地域社会をさらに分裂させます。ただちに暴力をやめて命を守ることこそが必要なのだと、いまいちど確認しなければなりません。

昨夏に開催した世界YMCA大会で私たちは、イスラエルとパレスチナの平和のために声明を発表し、双方の青年たちによる「Just World Tour(公正な世界への旅)」も予定していました。(開催は困難となりましたが)、幾多の困難があろうともYMCAは、最後には平和と和解が勝つという希望と信念を持ち続け、行動し続けます。

パレスチナ緊急救援募金のお願い

募金方法: 各YMCAの窓口へ持参、あるいは以下にお振込みください。

●郵便振替
00190-6-464236 日本YMCA同盟地域国際募金口
※「パレスチナ」と記載ください。

●Webサイトからクレジットカードでもご寄附いただけます。

<https://www.ymcajapan.org/ymca-works-for-peace-20231007/>

